

## \*\* Financial Market Outlook \*\*

Financial Market Outlook

新型コロナウイルスが全世界に拡大も収束の兆しは見えず

## &lt;サマリー&gt;

- (7/30)第2四半期の米国内総生産(GDP)は年率換算で前期比32.9%減と史上最大の下落。  
(9/15)米連邦準備制度理事会(FRB)は政策金利の誘導目標レンジを0.00-0.25%に据え置き。  
(9/16)第99代内閣総理大臣に菅義偉が指名され、菅内閣が発足した。

## &lt;トピックス&gt;

**I: 日本/世界経済トピックス**

- 7月30日、世界全体の新型コロナウイルスの累計感染者数が4,170万人を突破した。国別では1位アメリカ、2位インド、3位ブラジル、4位ロシアとなり、中国での感染者が沈静化する一方、中南米、ヨーロッパでの増加が懸念されている。経済面においては、第1四半期にダウ平均株価は歴史的な大暴落を起こしたが、米トランプ政権の経済対策等が奏功し第2四半期にかけて大幅に回復した。
- 9月14日、1部上場銘柄の約4分の3が値上がりし、2月14日以来、約7ヶ月ぶりの高値となった。個別銘柄では、指ソフトバンクが、英半導体設計大手アーム・ホールディングスの売却を発表したことを受けて大幅上昇し、全体の指数を押し上げた。また同日、自民党総裁選挙が行われ、菅義偉が新首相となる見通しとなったことも好材料となった。
- 9月16日、自民党の菅義偉総裁は衆議院本会議の首相指名選挙で第99代首相に選出され、2012年12月以来、7年8ヶ月ぶりに首相交代となった。菅首相は、今後も金融緩和、財政投資、成長戦略の三本を柱とするアベノミクスを継承していく方針である。

**II: 株式市場動向**

- 2020年第2四半期(7月~9月)は、前四半期の急激な下落から上昇基調に転じた。トランプ米政権による家計に対する直接給付等の経済対策が奏功し、経済活動は5月頃から持ち直し始めたが、新型コロナウイルスの感染者が再び増加傾向となったため、経済活動のペースは依然として鈍化している。FRBは金利をゼロ近辺に維持し、市場への資金供給の継続を確約しており、トランプ米政権も総額約3兆ドルの経済対策を打ち出しているものの、経済対策の多くは時限措置となっており、追加経済対策の早期合意が喫緊の課題とされている。

### III: 為替相場

- ・ 新型コロナウイルス感染者の増加や、米 GDP の発表を受けて世界経済の回復期待感が後退したことにより、国債が買われ利回りは低下したが、9 月には米ドル安に一巡感がみられ、他通貨はやや下落する傾向がみられた。

### IV: J-REIT/不動産関連セクター動向

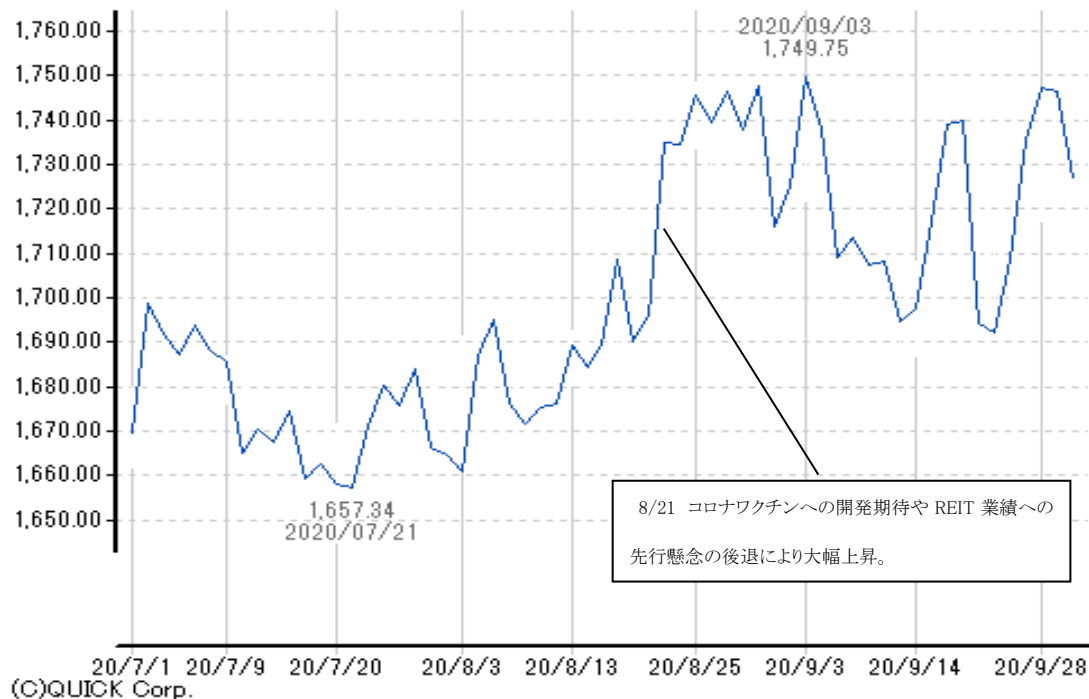
- ・ 9 月 16 日、個別銘柄では、三井不動産ロジスティクスパーク投資法人が公募増資を発表し、今回の公募で資産規模は 2,824 億円となった。コロナ禍で REIT 全体の外部成長に停滞感が見られるなか、物流施設の好調な見通しがマーケットでは好感的な見方をされている。
- ・ 2020 年第 2 四半期の東証 REIT 指数は、ホテルや商業施設を保有する J-REIT を中心に 19 銘柄が 1 口あたりの分配金を下方修正した。J-REIT の先行指標についても大幅な落ち込みを示しており、今後はリスクマネジメントがより一層求められることになる。オフィスビル系銘柄についても 8 月の上昇基調から一転、9 月は下落した。在宅勤務やリモートワークの進展等による環境変化により都心部の稼働率の低下がみられるため、下落基調での推移となった。

### V: Financial Market Outlook

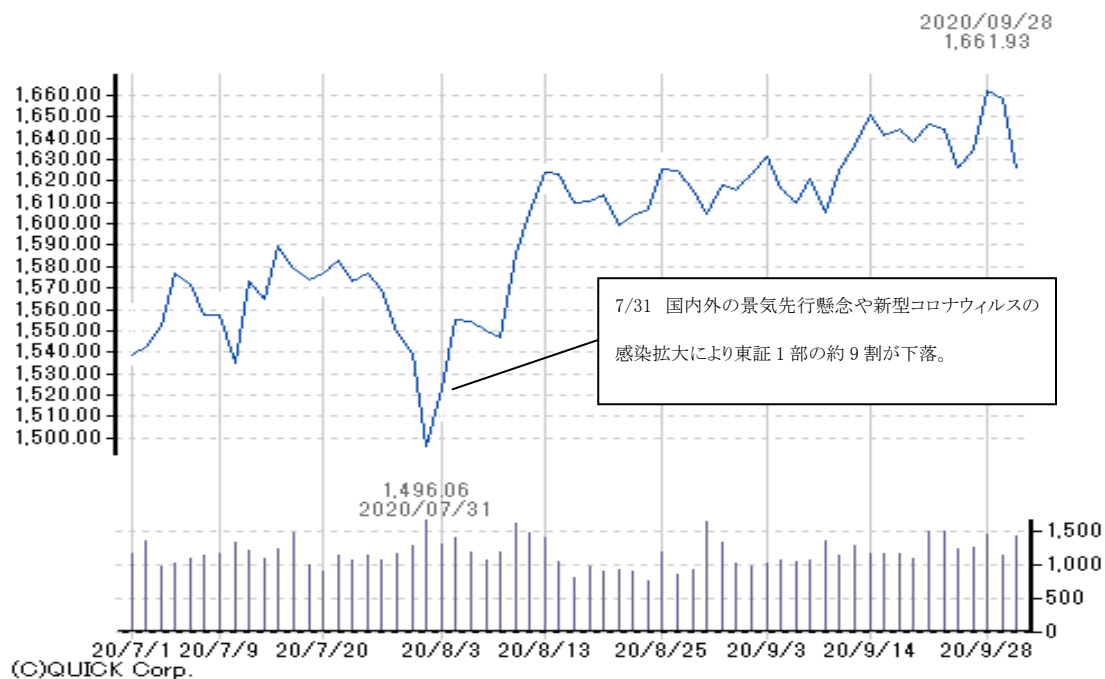
- ・ 2020 年度第 2 四半期(7 月-9 月)の世界市況は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に集約される。感染者数の収束化やワクチンの開発等、感染抑制の決め手を欠く状況が続いており、感染者数は増加の一途をたどっている。特にヨーロッパでは再びロックダウンの可能性もあり、緊迫した状況が続いている。日経平均株価は 3 月には 16,522 円と大幅に下落したが、9 月の終値は 23,185 円と回復基調ではあるものの、先行きの不透明感から第 2 四半期における上昇幅は小幅にとどまっている。今後も引き続き株式市場の動向から目が離せない緊迫した状況が続くものと思われる。

新型コロナウイルスワクチンの開発期待や米政府の経済対策により一時的な下落は食い止められているが、今後の大規模かつ包括的な追加経済対策法案が米議会を通過するか否かが大きな争点となっている。また、11 月 3 日には米大統領選挙が控えており、その結果が世界経済に与える影響を注視する必要がある。

【東証 REIT 指数】



【TOPIX】



## 【各種経済指標】

指標	令和2年6月末	令和2年9月末
TOPIX	1,558.77 ポイント	1,625.49 ポイント
ドル/円	107 円 92 銭	105 円 45 銭
ユーロ/円	121 円 20 銭	123 円 56 銭
東証 J-REIT 指数	1,666.83 ポイント	1,726.66 ポイント

**重要なお知らせ**

本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の投資や取引を勧誘するためのものではありません。本資料のデータは信頼できるソースに基づき記載されてはおりますが、その完全性や正確性を保証するものではありません。本資料に於きます当社の見解も現時点のものであり、将来的には予告なく変更される場合がございます。つきましては、投資のご判断はお客様ご自身で行ってくださいますよう、御願いたします。

又、本資料は当社の著作物ですので、本資料の引用や転載、複製を禁じます。

東京キャピタルマネジメント株式会社

関東財務局長(金商)第1388号（投資運用業、第二種金融商品取引業者、投資助言・代理業）